

実践報告

札幌市立南月寒小学校

(1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験的な学習」

- 北海道の先住民族であるアイヌ民族が築いてきた歴史や文化、また、北海道の発展に尽くした先人の働きや苦心について理解する。

(2) 実践の内容

【実践①】札幌ウポポ保存会の方たちとの交流について

○ ねらい

アイヌ文化に触れて学習することを通して、アイヌ民族の社会や文化を理解し、尊重する態度を養う。

○ 学習内容

＜アイヌ民族の歴史や文化についての講話＞

アイヌ民族の北海道での暮らしや生活の様子、挨拶の言葉やしきたりなどについて話していただいた。子どもたちは、社会科の学習で学んだこと以上の話を聞くことができ、より関心を高めることにつながった。



＜アイヌの楽器や踊りの実演・体験＞



アイヌの楽器「ムックリ」の演奏を聴いた。子どもたちはその独特の音色に聴き入り、鳴らし方をじっと見つめていた。次にアイヌ民族の古式舞踊を見せてもらった。どのようなことを表しているのかを教えてもらったり、繰り返し出てくる歌の節を一緒に口ずさんだりしながら、アイヌの踊りの文化を感じ取っていた。その後、古式舞踊の体験を行った。歌を教えてもらい、全員で大きな輪になって歌

いながら踊り、小鳥の様子を表している動きやかけ声を表現しながら一体感を味わうことができた。

＜アイヌ文様の説明＞

最後に、着物やはちまきのアイヌ文様について説明していただいた。地域ごとに文様が違うことや、それぞれの文様の特徴、何を表しているのかを説明してもらった。また、着物やはちまきは年長者から代々受け継がれ、大切に使われているということを教えてもらった。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- アイヌ民族の方から直接お話を聞くことで、より詳しくアイヌの歴史や文化について学ぶことができた。アイヌ民族が大切にしているものが伝わってきた。
- アイヌ民族の歌や踊りを間近で見ることができ、一緒に体験することができるのは貴重な体験であった。短い時間ではあるが、子どもたちはアイヌ文化を体感し、その世界に浸ることができた。
- 今回はたくさんの道具も持ってきて見せていただいたことで、写真やインターネットなどでしか見ていなかった物や初めて知る物を実際に手に取って見ることができ、アイヌ文化の一端について実感することができた。

② 課題

- 今回の内容であれば、1時間では活動の時間が若干足りなかった。2時間あると、その場で生じた質問に答えていただいたり、持ってきていただいた道具に触れる時間を多く取ったりすることができたと考える。
- 今年度、9月の実施を予定していたが、地震の影響で時期が変更になった。そのため、アイヌ民族の文化や歴史について事前に学び、学んだことを踏まえて体験し、体験したことでさらに学びを深めるという、当初予定していた流れでの活動は行えなかった。次に行うときは、今年度当初予定していた流れで行うと、より学びが深まると考える。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 今回は社会科の学習の中での「人権教育」として行った。実際に見たり直接話を聞いたりすることは、子どもたちに強く印象に残る。計画的に単元を通して学びを積み上げることで、体験したことを深い学びにつなげていくことが大切である。